

# 学校紹介

山口県立下関双葉高等学校 PTA会長 山崎利幸

## 本校の概要

本校は昼間部と夜間部を有する、2部制定時制課程、総合学科、単位制の高校です。下関市内に存在していた3つの高校の夜間部定時制課程が募集停止となり、平成31年4月に、山口県初の多部制定時制の独立校として開校しました。校舎は、統廃合に伴い閉校となつた山口県立下関中央工業高等学校の跡地を活用しています。現在は、山口県立下関総合支援学校高等部（以下、下総）も移転しており、一つの校舎を2校で共有しています。現在、昼間部には約80人、夜間部には約40人の生徒が在籍しています。生徒の大半は10代ですが、20代以上の方も在籍しています。

定時制課程の生徒は1日4時間の授業を受け、4年間かけて学びますが、本校では、通常の授業に加えて3年修業制度（三修制）を導入しています。

## スクール・ミッション



開校準備室設置式  
【平成31年】

これにより3年間で卒業を目指すことができ、多くの生徒がこの制度を利用しています。また、総合学科では、一年次で共通科目を学んだ後、二年次以降になると系列「普通」「工業」「商業」に分かれて学習します。本校は制服がなく、服装や髪型の規定も緩やかで、自動車やバイクの免許取得を制限しないなど、柔軟性があり、制約が少ない高校です。また、生徒に対して就労を奨励しており、多くの生徒がアルバイトなどで働きながら学んでいます。「社会のルールが下関双葉のルール」として、社会性の育成に努めています。



入学案内

効果的なキャリア教育等を通して、確かな学力や、お互いを認め合い協働して物事に取り組む態度、社会に貢献しようとする意欲を育み、自立して社会を生きていくことができる人材を育成します。

## スクール・スローガン

「自分の未来を見つける場所」

本校には、不登校経験者や学び直しを志す生徒、障がいを抱えた生徒など、さまざまな事情を抱えた生徒が多く在籍しています。それぞれの事情により、小中学校時代に学校にあまり通えなかった生徒や、まだ自分の夢や目標を見つけられていない生徒が多数います。

本校の教育システム（多部制定時制、総合学科、三年修業制度）や社会経験を通して、生徒たちが自分らしいスタイルで学びをすすめる、自分の未来を見つける手助けをしたいという願いを込めて、令和4年度に制定されました。

## 進路指導

進路状況		R3	R4
大学	国公立	1	3
	私立	4	8
短期大学		1	1
専門学校		8	7
就職		5	18
その他		4	14
合計		23	51

【図1】

「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を中心に、進路意識の向上と社会人基礎力の育成を目指して、本校では積極的にキャリア教育を実践しています。本校は新設校であり、進路開拓においてはゼロからのスタートでした。最初の2年間は、本校の存在を周知させることに重点を置くとともに、きめ細かいキャリア教育の推進や進路面談を重ね、生徒の可能性を探りました。過去2年間の進路状況は図1のとおりで、全員が希望進路を実現しています。昨年度の実績では、進学においては、下関市立大学を受験した3人全員が合格し、進学しました。また、就職においても、山口銀行やJR西日本などの企業にも就職しています。その他の生徒は、現業やアルバイトをそのまま継続している者や、3年間の努力の結果、1年ゆっくりしてから次の進路を考えようとする者がいます。

## 下関総合支援学校との交流

併設の下総の授業に参加し、下総の文化祭「下総ふれあいまつり」で販売するマグカップの企画、デザイン、制作を共同で行いました。

本校生徒と下総生徒が触れ合い、共に活動する、「交流及び共同学習」は、両者にとって経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となります。



オリジナルマグカップ

## PTAの組織について

PTAは、保護者と学校が緊密に連携し、地域全体を巻き込んで生徒たちの健全な成長を促す組織です。しかしながら、本校は多部制定時制高校のため、全ての生徒が同じ時間を共有することができません。こうした状況のなかで、下関双葉高校は一人ひとりの実情に寄り添う先生方の手厚いサポートに支えられ、生徒たちは困難に立ち向かいながらも、

毎日を楽しく生き抜こうとしています。子どもたちの健康で文化的な成長を促すためには、私たち保護者のサポートが不可欠であり、できる限りの支援が求められます。

全日制高校のPTAと同じような活動を展開することは難しいかもしれませんが、必ずしも同じことを行う必要はありません。下関双葉高校PTAでは、生徒・保護者・教職員それぞれのポジションを尊重し、「できることをできるだけ」を合言葉に、活動しています。

## PTAの立ち上げから現在に至るまで

1年目は右も左もわからないまま、学校運営協議会や県高Pの地区会など、「会長が出席する会」に出席するのみでした。そうこうしていると、新型コロナウイルスの猛威が日本中を襲い、2年目は活動を全く行うことができませんでした。3年目、初めての卒業式に向けて様々な準備が進む中で、学校（生徒会）の取組の一環として、「桜の記念植樹」に立ち会わせていただきました。その時ふと、会長の頭に「生徒たちは、学校生活の中で写真を撮ってきたのかな？」という疑問がよぎりました。コロナで制限ばかりの3年間、行事



第1回PTA総会



PTA役員会の様子

もできずクラスメートはマスクを付けている顔しか見たことのないのではないかと考えました。他の役員さんと相談し、考えついたのが写真フレームでした。卒業式当日、多くの卒業生と保護者の方が最高の笑顔で写真を撮る姿を見て、とても嬉しく思うと同時に小さな達成感を感じました。4年目、2代目（現会長）に交代しました。小中学校でのPTA会長の経験をともに、不定期ながら役員会を開いたり、生の声を聞くために生徒会と意見交換を行ったりして、様々な提案をし、実行しました。更に、少ないながらもPTAが頑張っていることを知ってもらうため、広報誌を創刊することができました。そして、5年目の今年、新型コロナウイルスが感染症法第5類に緩和されたことから、PTA活動をどう拡大していくかが課題でした。

子どもたちの健全育成と学校運営への支援について、PTAとしてできることはないか模索しています。思い出に残る卒業式を迎えられるよう、PTAによる美化活動を計画しています。将来的には、学校が実施している様々な行事を共に企画したり、キャリア教育などに参画したりと、構想はどんどん膨らみます。しかし、PTA活動は多くの保護者協力が必要であり、皆さんに「それくらいなら参加してみようかな、手伝ってみようかな」と思ってもらいたくことが大切です。縁あって同じ学校に我が子が通うことになったもの同士、膝を交えて腹を割って、一緒に楽しい時間を過ごせたらと思っています。

## 今後のPTA活動



写真フレーム